

大日本海洋少年團朝鮮本部

復刻版

『海國少年』

監修・解題―石川巧・林相珉

―戦時末期の「課外読本」

戦時末期、植民地朝鮮で

発行された子ども向け

日本語雑誌にして「課外読本」。

朝鮮総督府や朝鮮軍の支援を

受け、朝鮮文壇ともつながる

本誌を所蔵する図書館・機関は

なく、既存学術研究でも

言及したものは皆無。

今回、奇跡的に出現した

1944年5月の創刊号から

1945年2月号までの七冊を集成。



1940年代前半の

子どもをめぐる

状況の理解だけでなく、

文学・教育学研究、

朝鮮近代史・在日朝鮮人研究史

にも活用できる。

大日本海洋少年團朝鮮本部 『海國少年』 ―戦時末期の「課外読本」

監修・解題―
石川巧 (立教大学) 造本―A5・並製・総約960頁
林相珉 (東義大学) 揃価―66,000円 (配本毎・別冊分売可)

【第一回配本】2022年12月 配本揃価22,000円 ISBN978-4-910363-95-0

- ・第一巻(264頁)20,000円
『海国少年』1巻1号～1巻6号(1巻3号～1巻4号欠)
(大日本海洋少年團朝鮮本部、1944年5月～11月)
- ・別冊(86頁)2,000円 (別冊のみ分売可) ISBN978-4-910363-97-4
解題、総目次細目、執筆者名索引、発行年月一覧表

【第二回配本】2023年6月 配本揃価44,000円 ISBN978-4-910363-96-7

- ・第二巻(286頁)22,000円
『海国少年』1巻7号～2巻2号(大日本海洋少年團朝鮮本部、1944年12月～45年2月)
<附録> 『大日本海洋少年團紀要』(大日本海洋少年團、1942年)
- ・別巻(334頁)22,000円
<附録> 『僕等は海洋少年團』伊藤浩三(郁文社、1942年)

朝鮮や内地における子どもの社会教育を
考える上で貴重な素材となる。

関連図書のご案内



石川巧 編・解題
海軍外郭団体雑誌
『くろがね』
【全3巻+別冊】【編集復刻版】
A5判 糸上製函/並製(別冊のみ)
総860頁 ¥63,000



須山智裕・大津昭浩 解題
『海軍報道』
―大本営・報道班員・徴用作家
【全5巻+別冊】【復刻版】
A5判 並製(別冊のみ)
総1,700頁 ¥89,000

推薦します

圓入 智仁 (えんにゆう・ともひと / 中村学園大学教育学部)

今回の復刻の情報に接して、とても驚いた。内地では子ども向け海洋雑誌の発行が難しくなり始めた1944年に、新規に雑誌『海国少年』が発行されたこと、それが「大日本海洋少年団朝鮮本部」という未知の組織による出版であること、さらに、これまで不詳だった朝鮮の海洋少年団に関する記事が掲載されていることが、驚きの源である。当時の出版事情の詳細は不勉強だが、少年団史、社会教育史、朝鮮教育史など、今回の復刻が様々な研究領域に与える影響を想像すると、わくわくする気持ちを抑えきれない。

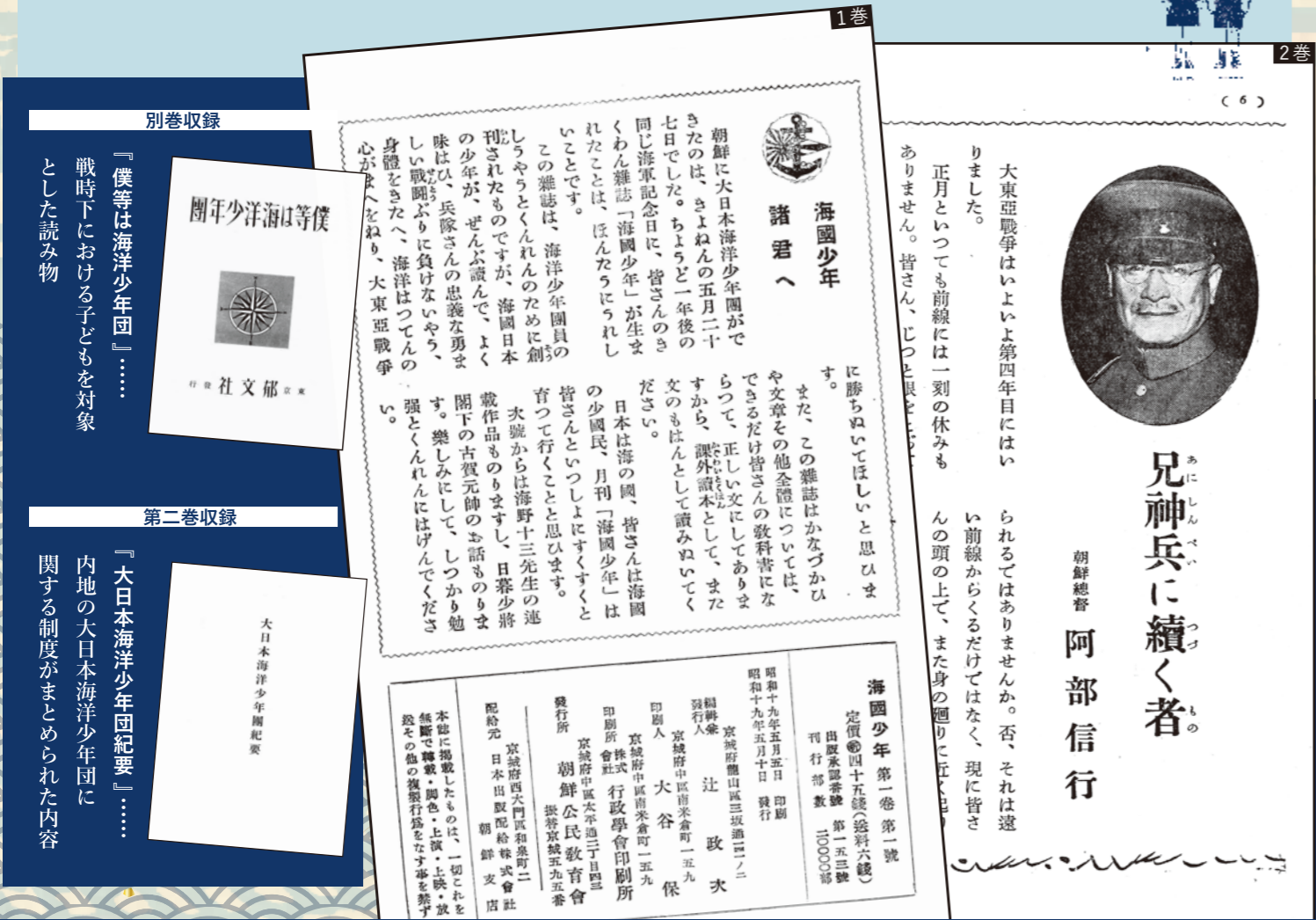
今回の復刻別巻に収録されている『大日本海洋少年団紀要』は、あくまで内地の海洋少年団に関する制度をまとめたものであり、朝鮮に関する記載はない。この冊子の出版が1942年であることを考えると、この後に「大日本海洋少年団朝鮮本部」に関する規定が成立した可能性がある。今後の研究成果を待ちたい。

また、『僕等は海洋少年団』は戦時下における子どもを対象とした読み物として、当時子どもをめぐる状

況の理解だけでなく、文学や教育学の研究に活用できるだろう。その際、子どもの憧れを戦争に結びつけようとする大人の意図を冷静に、そして客観的に把握してほしい。それはすなわち、現代の子ども向け、いや、大人向けの読み物も含めて、その論調がどこに向かおうとしているのかを考える、重要な手がかりになると思うからである。

他方、今回の復刻で恐れていることがある。今回、復刻された雑誌や冊子などが、1940年代前半の朝鮮や内地における子どもの社会教育を考える上での貴重な史料であることは疑わないが、今回の復刻された雑誌や冊子に対する理解あるいは解釈—例えば軍国主義や超国家主義—を、それ以前の1930年代や1920年代以前にまで拡大してしまうことへの危惧である。

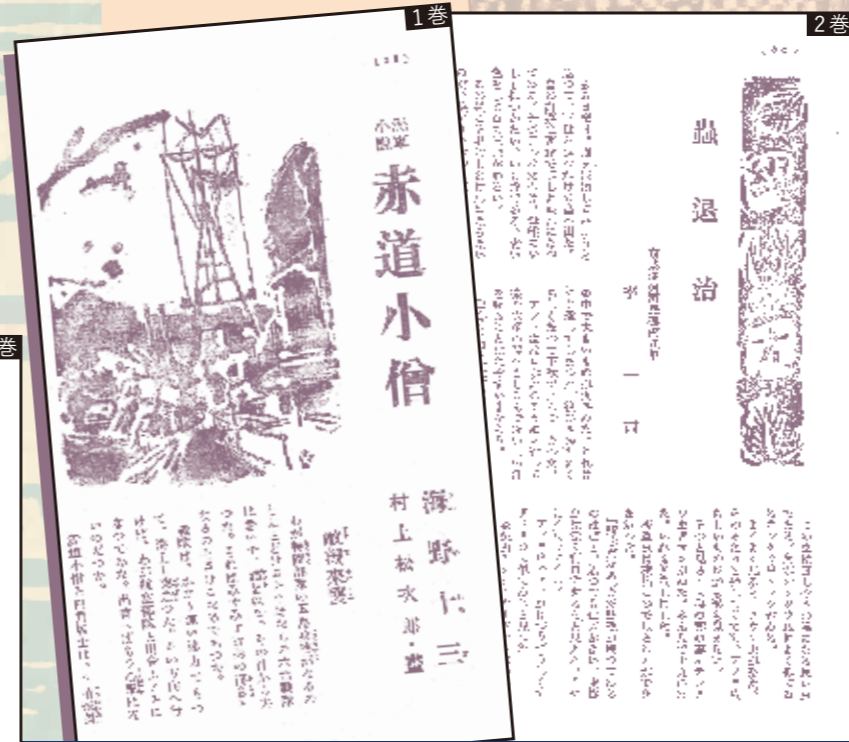
そうとはいえ、今回の復刻が教育学において幅広い興味関心を引きつけ、様々な研究に活用されることを願うと共に、その成果を期待するものである。



当局による「宣撫工作」雑誌メディア

内地では本土空襲がはじまり、児童を護るために学童疎開しか術がない状況に陥っていた日本政府は、食糧増産、軍需生産の手段として朝鮮を利用するだけでなく、朝鮮「少国民」に「御国の楯」になることを求めた。

『海国少年』という雑誌は朝鮮「少国民」を皇民化し、「大東亜戦争」に駆り出すための人的資源を育成するための戦略的メディアであった。すでに朝鮮人としてのアイデンティティを獲得している青年ではなく、教育と訓練によって操ることができる「少国民」を洗脳することで、近い将来の徴兵制を円滑に進めていこうとする戦略を具現した雑誌だった。



総目次 <抄録>

- 海国少年の本領 <創刊のことば> 楠公の真心 小磯 国昭 (朝鮮総督) 田中 武雄 (大日本海洋少年団朝鮮本部長政務総監)
- 日本の海洋資源の将来 木下 好治 (朝鮮総督府編修官) 伊波 南哲
- <朗読詩> 海国魂
- <読者の頁> 海洋少年団 / 海洋少年団員になって / 海洋少年団 / 海 早田耕三 (京城南大門公立国民学校) / 和田俊雄 (鍾岩公立国民学校) / 重田良一 (京城南大門公立国民学校) / 元岡錫 (鍾岩公立国民学校)
- <読者の頁> 二株の大豆 / 出征 / 海軍記念日 / 海軍記念日の歌 大野倉成 (京城寿松公立国民学校) / 文村泰成 (京城寿松公立国民学校) / 中島憲治 (京城鍾岩公立国民学校) / 宮本州男 (京城鍾岩公立国民学校六年)

戦争末期一九四四年五月創刊

『海国少年』は個々の読者が書店で購入するものではなく学校教育で用いられる「課外読本」だった。詩や唄も数多く掲載されており全員で音読し、それは、日本語で意思を表明し日本語でものを考える皇国民を養成するうえで極めて有効だった。



- <動員美談> 負傷をおして動員作業 われらは海洋少年団一徳積海洋少年団 (京畿道富川郡徳積公立国民学校) (写真) 越山 豊一 松本 一郎 (京城在勤海軍武官/海軍大佐) 阿部 信行 (朝鮮総督)
- 台湾・比島沖の決戦 半島の神兵「金原軍曹」 わが校 軍艦旗掲揚式 松村 鏞鶴 (開城満月公立国民学校六年)
- 星の話 <漫画> ボクノヒカウキ 赤道小僧一椰子の水 / 白衣の勇士 / ふしぎな縁 海野 十三 / 村上 松次郎 (画) 石川 早悦 (京城師範付属第二国民学校五年) 清崎 正義 / 佐藤 樹良 (画) 武石 武 (朝鮮総督府気象台技師)
- <綴方> 「江田島」を読んで
- 護国の珠星の話